

指標別評価・分析シート（案）

領域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評価方法及び評価区分は、同一計画における評価の継続性を担保するため、中間評価時と同様、原則として増減率（相対的変化）5%を基準に評価するとともに、適宜必要な分析を行い、その結果も踏まえて総合的に勘案し判断する 													最終評価（R4）			
分野	<ul style="list-style-type: none"> a（改善）：増減率が指標の目指す方向に対して+5%超 b（不変）：増減率が指標の目指す方向に対して±5%以内 c（悪化）：増減率が指標の目指す方向に対して-5%超 d（評価困難）：増減率の比較ができない等、指標評価が困難 																
指標名	<ul style="list-style-type: none"> ■ 増減率（%） = （現状値 - ベースライン値） / ベースライン値 × 100 ■ 指標の目指す方向を定めていない参考指標については、中間評価時と同様に評価を行わず、経年グラフによる数値の変化等を基に分析と課題抽出を行う ■ また、中間評価と同様、領域・分野ごとの総合評価は、別途それぞれ総括する 													中間評価（H30）			
出典																	
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
図表	<ul style="list-style-type: none"> ■ 点線枠：ベースライン値（プラン策定時の数値） ■ 二重線枠：中間評価時（平成30年度時点）の現状値 ■ 実線枠：最終評価時（令和4年度時点）の現状値 													<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けていると考えられる令和2年（度）以降のセルの色を区別 			
<p>指標数値を経時的に示すグラフ等を表示</p> <p>→ これまでの数値の増減の傾向や特徴を“見える化”する</p>																	
分析	<ul style="list-style-type: none"> ■ ベースライン値と直近値の比較を通じた数値の動きや増減率についてコメント ■ 中間評価時からの変化についても言及 ■ 必要に応じて、性・年代別分析やコロナの影響についての考察等も実施 																
評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上記分析（ベースライン値と直近値の比較分析）を踏まえ、評価a～dを記載 ■ 必要に応じて、目標値や目標の目安に対して意味のある増減幅であるか等も加味して判断 ■ 指標の目指す方向を定めていない参考指標については、中間評価と同様に評価を行わない 																
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上記分析・評価やこれまでの関連施策の取組状況等を踏まえ、今後の課題について記載 ■ 必要に応じて、コロナの影響についても触れる ■ 当該記載内容が、次期プランの取組の方向性につながっていくイメージ 																

次世代の健康（指標（男子））

領域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）																																																	
分野	次世代の健康											各学年ともに c （悪化）																																																	
指標名	1日に60分以上運動・スポーツをする児童・生徒の割合を増やす（男子）											中間評価（H30）																																																	
出典	東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査 [東京都教育委員会]											b （不変）																																																	
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																												
（男子：小5）						73.0%	73.4%	72.5%	71.1%	70.7%	69.9%	69.0%	67.1%		61.4%																																														
（男子：中2）						79.6%	80.2%	80.2%	79.3%	79.1%	79.2%	77.6%	75.7%		68.6%																																														
（男子：高2）						60.0%	61.6%	63.4%	62.5%	62.7%	61.5%	59.4%	58.4%		55.7%																																														
図表	<table border="1"> <caption>図表：1日に60分以上運動・スポーツをする児童・生徒（男子）の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小5</td> <td>73.0</td> <td>73.4</td> <td>72.5</td> <td>71.1</td> <td>70.7</td> <td>69.9</td> <td>69.0</td> <td>67.1</td> <td></td> <td>61.4</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>79.6</td> <td>80.2</td> <td>80.2</td> <td>79.3</td> <td>79.1</td> <td>79.2</td> <td>77.6</td> <td>75.7</td> <td></td> <td>68.6</td> </tr> <tr> <td>高2</td> <td>60.0</td> <td>61.6</td> <td>63.4</td> <td>62.5</td> <td>62.7</td> <td>61.5</td> <td>59.4</td> <td>58.4</td> <td></td> <td>55.7</td> </tr> </tbody> </table>																	学年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	小5	73.0	73.4	72.5	71.1	70.7	69.9	69.0	67.1		61.4	中2	79.6	80.2	80.2	79.3	79.1	79.2	77.6	75.7		68.6	高2	60.0	61.6	63.4	62.5	62.7	61.5	59.4	58.4		55.7
学年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3																																																			
小5	73.0	73.4	72.5	71.1	70.7	69.9	69.0	67.1		61.4																																																			
中2	79.6	80.2	80.2	79.3	79.1	79.2	77.6	75.7		68.6																																																			
高2	60.0	61.6	63.4	62.5	62.7	61.5	59.4	58.4		55.7																																																			
分析	<ul style="list-style-type: none"> ■1日に60分以上運動・スポーツをする児童・生徒（男子）の割合は、各学年でベースライン値と比べて減少している（増減率：小5▼15.9%、中2▼13.8%、高2▼7.2%）。 ■中間評価時はおおむね不変であったが、中間評価時以降は減少傾向であり、特に小5、中2男子は減少幅が大きい。 ■最終評価数値の落ち込みは、コロナ禍における外出自粛（ステイホーム）による影響も受けているものと考えられる。 																																																												
評価	<ul style="list-style-type: none"> ■1日に60分以上運動・スポーツをする児童・生徒（男子）の割合は、各学年でベースライン値と比べて減少した。 ■どの学年も、増減率が指標の方向に対して-5%超であることから、最終評価を「c（悪化）」とする。 																																																												
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■生涯にわたり、健康を保持増進するためには、運動やスポーツを楽しみながら、自らの体力を高めることができる習慣を身に付けることや、睡眠や食事などの健康的な生活習慣の定着が必要である。 ■「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、子供の頃から豊かなスポーツライフを送ることができる施策を推進する。 																																																												

次世代の健康（指標（女子））

領域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）					
分野	次世代の健康											小5、中2：c（悪化） 高2：a（改善）					
指標名	1日に60分以上運動・スポーツをする児童・生徒の割合を増やす（女子）											中間評価（H30）					
出典	東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査〔東京都教育委員会〕											b（不変）					
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
（女子：小5）						52.1%	53.6%	52.8%	52.5%	53.4%	52.8%	51.9%	51.0%		45.5%		
（女子：中2）						58.1%	59.1%	59.5%	59.5%	60.0%	60.0%	60.2%	58.8%		54.2%		
（女子：高2）						36.8%	38.8%	39.2%	40.4%	41.7%	40.8%	40.0%	40.8%		38.9%		
図表																	
分析	<p>■1日に60分以上運動・スポーツをする児童・生徒（女子）の割合は、小5、中2はベースライン値と比べて減少しているが、高2はベースライン値と比べて増加している（増減率：小5▼12.7%、中2▼6.7%、高2△5.7%）。</p> <p>■中間評価時は小5、中2女子はおおむね不変であったが、高2女子は増加傾向であった。中間評価時以降は、各学年ともに減少傾向である。</p> <p>■最終評価数値の落ち込みは、コロナ禍における外出自粛（ステイホーム）による影響も受けているものと考えられる。</p>																
評価	<p>■1日に60分以上運動・スポーツをする児童・生徒（女子）の割合は、小5、中2はベースライン値と比べて減少したが、高2はベースライン値と比べて増加した。</p> <p>■小5、中2女子について、増減率が指標の方向に対して-5%超であることから、最終評価を「c（悪化）」とする。</p> <p>■高2女子について、中間評価時と比べると減少傾向にあるが、増減率が指標の方向に対して+5%超であることから、最終評価を「a（改善）」とする。</p>																
課題	<p>■生涯にわたり、健康を保持増進するためには、運動やスポーツを楽しみながら、自らの体力を高めることができる習慣を身に付けることや、睡眠や食事などの健康的な生活習慣の定着が必要である。</p> <p>■「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、子供の頃から豊かなスポーツライフを送ることができる施策を推進する。</p>																

次世代の健康（参考指標 1（男子））

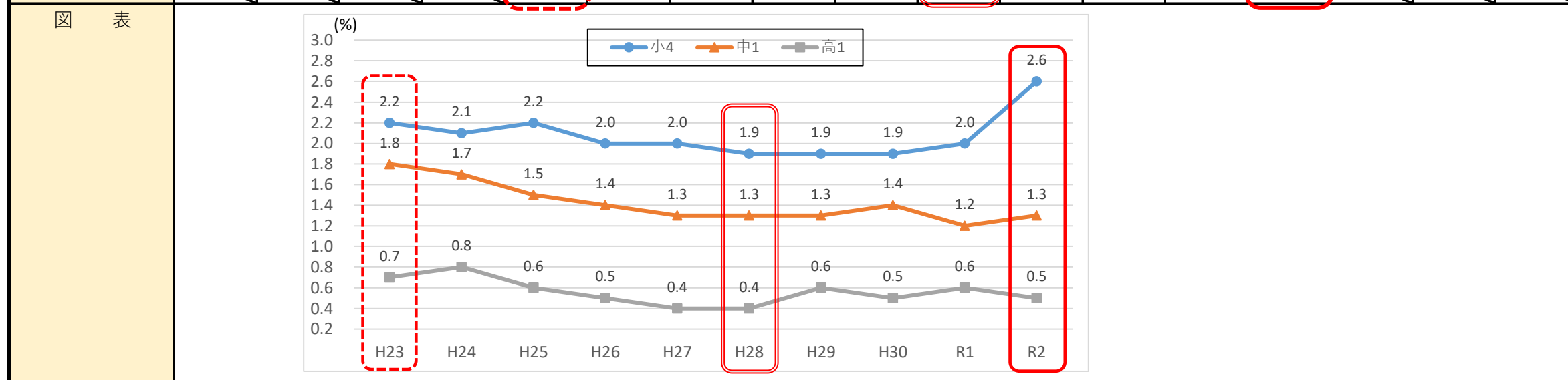
領 域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）					
分 野	次世代の健康											—					
指 標 名	毎日朝食を食べる児童・生徒の割合（男子） ※参考指標 ※中間評価時に、生涯にわたる健康づくりの基礎となる健康的な食習慣を図る参考指標として、既存の参考指標から変更											中間評価（H30）					
出 典	東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査 [東京都教育委員会]											—					
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
（男子：小5）					90.2%	90.3%	90.5%	90.4%	89.6%	88.5%	88.5%	87.9%	88.4%		87.6%		
（男子：中2）					84.8%	85.3%	85.4%	85.5%	85.1%	85.0%	84.5%	83.8%	83.4%		82.4%		
（男子：高2）					74.0%	74.8%	76.0%	76.9%	76.3%	76.2%	75.8%	73.9%	73.7%		73.2%		
図 表																	
分 析	<p>■毎日朝食を食べる児童・生徒（男子）の割合は、どの学年もやや減少している（増減率：小5▼2.9%、中2▼2.8%、高2▼1.1%）。</p> <p>■中間評価時以降の数値の推移を見ると、どの学年も減少傾向である。</p> <p>■最終評価の数値は、コロナ禍における外出自粛（ステイホーム）による生活習慣の乱れの影響も受けているものと考えられる。</p>																
課 題	<p>■生涯にわたり、健康を保持増進するためには、運動やスポーツを楽しみながら、自らの体力を高めることができる習慣を身に付けることや、睡眠や食事などの健康的な生活習慣の定着が必要である。</p> <p>■「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、健康三原則（運動、食事、休養及び睡眠）の大切さを伝える取組など、子供が自ら健康的な生活スタイルを確立することができる施策を推進する。</p>																

次世代の健康（参考指標 1（女子））

領域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備												最終評価（R4）																																																				
分野	次世代の健康												—																																																				
指標名	毎日朝食を食べる児童・生徒の割合（女子） ※参考指標 ※中間評価時に、生涯にわたる健康づくりの基礎となる健康的な食習慣を図る参考指標として、既存の参考指標から変更												中間評価（H30）																																																				
出典	東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査 [東京都教育委員会]												—																																																				
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																																
（女子：小5）					91.9%	92.1%	92.3%	92.1%	91.5%	90.2%	90.4%	89.7%	89.2%		88.5%																																																		
（女子：中2）					85.1%	85.5%	85.8%	85.6%	85.3%	84.9%	84.1%	83.6%	82.9%		80.8%																																																		
（女子：高2）					76.7%	77.9%	77.8%	78.5%	78.1%	77.9%	78.0%	76.8%	75.9%		76.1%																																																		
図表	<table border="1"> <caption>朝食を食べる児童・生徒の割合（女子）の推移</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小5</td> <td>91.9</td><td>92.1</td><td>92.3</td><td>92.1</td><td>91.5</td><td>90.2</td><td>90.4</td><td>89.7</td><td>89.2</td><td></td><td>88.5</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>85.1</td><td>85.5</td><td>85.8</td><td>85.6</td><td>85.3</td><td>84.9</td><td>84.1</td><td>83.6</td><td>82.9</td><td></td><td>80.8</td> </tr> <tr> <td>高2</td> <td>76.7</td><td>77.9</td><td>77.8</td><td>78.5</td><td>78.1</td><td>77.9</td><td>78.0</td><td>76.8</td><td>75.9</td><td></td><td>76.1</td> </tr> </tbody> </table>																	学年	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	小5	91.9	92.1	92.3	92.1	91.5	90.2	90.4	89.7	89.2		88.5	中2	85.1	85.5	85.8	85.6	85.3	84.9	84.1	83.6	82.9		80.8	高2	76.7	77.9	77.8	78.5	78.1	77.9	78.0	76.8	75.9		76.1
学年	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3																																																						
小5	91.9	92.1	92.3	92.1	91.5	90.2	90.4	89.7	89.2		88.5																																																						
中2	85.1	85.5	85.8	85.6	85.3	84.9	84.1	83.6	82.9		80.8																																																						
高2	76.7	77.9	77.8	78.5	78.1	77.9	78.0	76.8	75.9		76.1																																																						
分析	<ul style="list-style-type: none"> ■毎日朝食を食べる児童・生徒（女子）の割合は、高2はおおむね不変であるが、小5はやや減少、中2は減少している（増減率：小5▼3.7%、中2▼5.1%、高2▼0.8%）。 ■中間評価時以降の数値の推移を見ると、どの学年も減少傾向である。 ■最終評価の数値は、コロナ禍における外出自粛（ステイホーム）による生活習慣の乱れの影響も受けているものと考えられる。 																																																																
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■生涯にわたり、健康を保持増進するためには、運動やスポーツを楽しみながら、自らの体力を高めることができる習慣を身に付けることや、睡眠や食事などの健康的な生活習慣の定着が必要である。 ■「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、健康三原則（運動、食事、休養及び睡眠）の大切さを伝える取組など、子供が自ら健康的な生活スタイルを確立することができる施策を推進する。 																																																																

次世代の健康（参考指標2（男子））

領 域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）					
分 野	次世代の健康											—					
指 標 名	肥満傾向にある児童・生徒の割合（男子） ※参考指標											中間評価（H30）					
出 典	東京都の学校保健統計書 [東京都教育委員会]											—					
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
（男子：小4）					2.2%	2.1%	2.2%	2.0%	2.0%	1.9%	1.9%	1.9%	2.0%	2.6%			
（男子：中1）					1.8%	1.7%	1.5%	1.4%	1.3%	1.3%	1.3%	1.4%	1.2%	1.3%			
（男子：高1）					0.7%	0.8%	0.6%	0.5%	0.4%	0.4%	0.6%	0.5%	0.6%	0.5%			



分 析

- 肥満傾向にある児童・生徒（男子）の割合は、中1、高1では減少しているが、小4は増加している（増減率：小4▲18.2%、中1▽27.8%、高1▽28.6%）。
- 中間評価時以降の数値の推移を見ると、小4は増加傾向である。
- 最終評価の数値は、コロナ禍における外出自粛（ステイホーム）による生活習慣の乱れの影響も受けているものと考えられる。

課 題

- 生涯にわたり、健康を保持増進するためには、運動やスポーツを楽しみながら、自らの体力を高めることができる習慣を身に付けることや、睡眠や食事などの健康的な生活習慣の定着が必要である。
- 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、健康三原則（運動、食事、休養及び睡眠）の大切さを伝える取組など、子供が自ら健康的な生活スタイルを確立することができる施策を推進する。

次世代の健康（参考指標2（女子））

領 域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備												最終評価（R4）				
分 野	次世代の健康												—				
指 標 名	肥満傾向にある児童・生徒の割合（女子） ※参考指標												中間評価（H30）				
出 典	東京都の学校保健統計書 [東京都教育委員会]												—				
指標数値の推移 (女子：小4) (女子：中1) (女子：高1)	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
					1.5%	1.3%	1.4%	1.2%	1.2%	1.2%	1.1%	1.2%	1.1%	1.3%			
					1.1%	0.9%	1.0%	0.8%	0.8%	0.8%	0.7%	0.7%	0.6%	0.7%			
					0.2%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.1%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%			
図 表																	
分 析	<p>■小4、中1の肥満傾向にある児童・生徒（女子）の割合は、ベースライン値と比べて減少しているが、最終評価の数値は前年の数値より増加している（増減率：小4▽13.3%、中1▽36.4%）。</p> <p>■高1の肥満傾向にある児童・生徒（女子）の割合は、ベースライン値と同じで不変である。</p> <p>■最終評価の数値は、コロナ禍における外出自粛（ステイホーム）による生活習慣の乱れの影響も受けているものと考えられる。</p>																
課 題	<p>■生涯にわたり、健康を保持増進するためには、運動やスポーツを楽しみながら、自らの体力を高めることができる習慣を身に付けることや、睡眠や食事などの健康的な生活習慣の定着が必要である。</p> <p>■「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、健康三原則（運動、食事、休養及び睡眠）の大切さを伝える取組など、子供が自ら健康的な生活スタイルを確立することができる施策を推進する。</p>																

高齢者の健康（指標）

領域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）																	
分野	高齢者の健康											a（改善）																	
指標名	地域で活動している団体の数を増やす （健康、子育て支援、高齢、障害、生涯学習等の各部署で把握できる団体（各部署の公共施設等に登録又は利用実績がある団体や、部署が活動を直接的・間接的に支援している団体）の数）											中間評価（H30）																	
出典	都の実施する区市町村調査 [東京都福祉保健局]											b（不変）																	
指標数値の推移 （総数） <small>（高齢者人口千人当たり）</small>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5												
						90,461				97,586					110,954														
						32.88				32.05					35.35														
図表	<table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>図表データ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>総数</th> <th>高齢者人口千人当たり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>90,461</td> <td>32.88</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>97,586</td> <td>32.05</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>110,954</td> <td>35.35</td> </tr> </tbody> </table>																	年度	総数	高齢者人口千人当たり	H24	90,461	32.88	H28	97,586	32.05	R4	110,954	35.35
年度	総数	高齢者人口千人当たり																											
H24	90,461	32.88																											
H28	97,586	32.05																											
R4	110,954	35.35																											
分析	<ul style="list-style-type: none"> ■地域で活動している団体の数は、ベースライン値と比べて増加している（増減率：△22.7%）。 ■高齢者人口千人当たりの団体数も、ベースライン値と比べて増加している（増減率：△7.5%）。 ■中間評価時は、団体数は増加しているものの、高齢者人口の増加により、高齢者人口千人当たりの団体数が減少しており、総合的に勘案し改善とも悪化ともいえないことから不変という評価であったが、最終評価時は団体数及び高齢者人口千人当たりの団体数ともに増加している。 ■地域で活動している団体は、生涯学習主管課が把握する、文化活動やスポーツ活動、ボランティア活動などに関するものが多くを占めている。 ■なお、高齢者人口は平成24年2,751,484人から令和4年3,138,567人に増えている（増減率：△14.1%）。 																												
評価	<ul style="list-style-type: none"> ■地域で活動している団体の数及び高齢者人口千人当たりの団体数はともにベースライン値と比べて増加した。 ■増減率が指標の方向に対して+5%超であり、中間評価以降増加傾向にあることから、最終評価を「a（改善）」とする。 																												
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、筋力の低下や低栄養などに陥りがちな高齢者の特性を踏まえ、高齢期における望ましい生活習慣について普及啓発する。 ■コロナの流行による外出自粛等、高齢者を取り巻く環境に様々な影響が生じ、高齢者の孤立や心身の機能低下が見込まれる。「新しい日常」においても、高齢者が地域社会で活躍できる機会を確保するなど、地域と連携しながら、社会環境整備を進める。 																												

高齢者の健康（参考指標 1）

領域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）																											
分野	高齢者の健康											—																											
指標名	ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（全国） ※参考指標											中間評価（H30）																											
出典	公益財団法人運動器の10年・日本協会によるインターネット調査											—																											
指標数値の推移 （全国）	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																						
						17.3%	26.6%	36.1%	44.4%	47.3%	46.8%	48.1%	44.8%	43.8%	44.6%																								
図表	<table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>ロコモティブシンドロームの認知度推移（全国）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>認知率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>17.3</td></tr> <tr><td>H25</td><td>26.6</td></tr> <tr><td>H26</td><td>36.1</td></tr> <tr><td>H27</td><td>44.4</td></tr> <tr><td>H28</td><td>47.3</td></tr> <tr><td>H29</td><td>46.8</td></tr> <tr><td>H30</td><td>48.1</td></tr> <tr><td>R1</td><td>44.8</td></tr> <tr><td>R2</td><td>43.8</td></tr> <tr><td>R3</td><td>44.6</td></tr> </tbody> </table>																	年度	認知率 (%)	H24	17.3	H25	26.6	H26	36.1	H27	44.4	H28	47.3	H29	46.8	H30	48.1	R1	44.8	R2	43.8	R3	44.6
年度	認知率 (%)																																						
H24	17.3																																						
H25	26.6																																						
H26	36.1																																						
H27	44.4																																						
H28	47.3																																						
H29	46.8																																						
H30	48.1																																						
R1	44.8																																						
R2	43.8																																						
R3	44.6																																						
分析	<p>■国民のロコモティブシンドロームの認知度は上昇しているが、近年は横ばいである（増減率：△157.8%）。</p>																																						
課題	<p>■ロコモティブシンドロームを含めたフレイルについて、様々な媒体の活用などにより都民に分かりやすく紹介し、フレイルの意味と予防の重要性を啓発する。</p>																																						

高齢者の健康（参考指標 2）

領 域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）													
分 野	高齢者の健康											—													
指 標 名	高齢者の社会参加（スポーツや趣味等の活動をしている人の割合） ※参考指標											中間評価（H30）													
出 典	東京都福祉保健基礎調査（高齢者の生活実態） [東京都福祉保健局]											—													
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5								
				48.9%					46.4%					44.4%											
図 表	<table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>高齢者の社会参加率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>48.9</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>46.4</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>44.4</td> </tr> </tbody> </table>																	年次	割合 (%)	H22	48.9	H27	46.4	R2	44.4
年次	割合 (%)																								
H22	48.9																								
H27	46.4																								
R2	44.4																								
分 析	<p>■ 高齢者の社会参加は、ベースライン値と比べて減少傾向である（増減率：▼9.2%）。</p>																								
課 題	<p>■ 高齢者が自らの望む社会参加を実現できることで、生きがいの増進や自己実現が図られ、個人の生活の質が向上するとともに、社会貢献や介護予防・フレイル予防にもつながる。</p> <p>■ 「新しい日常」においても、高齢者が地域社会で活躍できる機会を確保するなど、地域と連携しながら、社会環境整備を進める。</p>																								

高齢者の健康（参考指標3）

領 域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備												最終評価（R4）																												
分 野	高齢者の健康												—																												
指 標 名	第1号被保険者に占める要介護認定者の割合 ※参考指標												中間評価（H30）																												
出 典	介護保険事業状況報告（月報）〔東京都福祉保健局〕												—																												
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																								
	\	\	\	\	16.6%	17.1%	17.5%	17.8%	18.0%	18.2%	18.4%	18.8%	19.1%	19.4%	19.7%	\	\																								
図 表	<table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>要介護認定者の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H23</td><td>16.6</td></tr> <tr><td>H24</td><td>17.1</td></tr> <tr><td>H25</td><td>17.5</td></tr> <tr><td>H26</td><td>17.8</td></tr> <tr><td>H27</td><td>18.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>18.2</td></tr> <tr><td>H29</td><td>18.4</td></tr> <tr><td>H30</td><td>18.8</td></tr> <tr><td>R1</td><td>19.1</td></tr> <tr><td>R2</td><td>19.4</td></tr> <tr><td>R3</td><td>19.7</td></tr> </tbody> </table>																	年度	割合 (%)	H23	16.6	H24	17.1	H25	17.5	H26	17.8	H27	18.0	H28	18.2	H29	18.4	H30	18.8	R1	19.1	R2	19.4	R3	19.7
年度	割合 (%)																																								
H23	16.6																																								
H24	17.1																																								
H25	17.5																																								
H26	17.8																																								
H27	18.0																																								
H28	18.2																																								
H29	18.4																																								
H30	18.8																																								
R1	19.1																																								
R2	19.4																																								
R3	19.7																																								
分 析	<p>■都における介護保険の第1号被保険者に占める要介護（要支援）認定者の割合は増加している（増減率：▲18.7%）。</p>																																								
課 題	<p>■高齢者が自らの望む社会参加を実現できることで、生きがいの増進や自己実現が図られ、個人の生活の質が向上するとともに、社会貢献や介護予防・フレイル予防にもつながる。</p> <p>■「新しい日常」においても、高齢者が地域社会で活躍できる機会を確保するなど、地域と連携しながら、社会環境整備を進める。</p>																																								

高齢者の健康（参考指標4）

領 域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）																																						
分 野	高齢者の健康											—																																						
指 標 名	シルバー人材センター会員数 ※参考指標											中間評価（H30）																																						
出 典	会員と就業会員の男女比 [公益財団法人東京しごと財団東京都シルバー人材センター連合]											—																																						
指標数値の推移 (男性) (女性)	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																	
	/	/	/	/	57,768	56,677	55,533	54,410	53,649	53,607	52,957	52,599	52,348	50,936	/	/	/																																	
	/	/	/	/	28,980	28,446	28,269	28,035	27,929	28,344	28,739	29,033	29,452	28,880	/	/	/																																	
図 表	<table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>シルバー人材センター会員数推移（H23～R2）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>男性（人）</th> <th>女性（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H23</td><td>57,768</td><td>28,980</td></tr> <tr><td>H24</td><td>56,677</td><td>28,446</td></tr> <tr><td>H25</td><td>55,533</td><td>28,269</td></tr> <tr><td>H26</td><td>54,410</td><td>28,035</td></tr> <tr><td>H27</td><td>53,649</td><td>27,929</td></tr> <tr><td>H28</td><td>53,607</td><td>28,344</td></tr> <tr><td>H29</td><td>52,957</td><td>28,739</td></tr> <tr><td>H30</td><td>52,599</td><td>29,033</td></tr> <tr><td>R1</td><td>52,348</td><td>29,452</td></tr> <tr><td>R2</td><td>50,936</td><td>28,880</td></tr> </tbody> </table>																	年度	男性（人）	女性（人）	H23	57,768	28,980	H24	56,677	28,446	H25	55,533	28,269	H26	54,410	28,035	H27	53,649	27,929	H28	53,607	28,344	H29	52,957	28,739	H30	52,599	29,033	R1	52,348	29,452	R2	50,936	28,880
年度	男性（人）	女性（人）																																																
H23	57,768	28,980																																																
H24	56,677	28,446																																																
H25	55,533	28,269																																																
H26	54,410	28,035																																																
H27	53,649	27,929																																																
H28	53,607	28,344																																																
H29	52,957	28,739																																																
H30	52,599	29,033																																																
R1	52,348	29,452																																																
R2	50,936	28,880																																																
分 析	<p>■都内のシルバー人材センター会員数は、男女ともにベースライン値と比べて減少している（増減率：男性▼11.8%、女性▼0.3%）。</p>																																																	
課 題	<p>■高齢者が自らの望む社会参加を実現できることで、生きがいの増進や自己実現が図られ、個人の生活の質が向上するとともに、社会貢献や介護予防・フレイル予防にもつながる。</p> <p>■「新しい日常」においても、高齢者が地域社会で活躍できる機会を確保するなど、地域と連携しながら、社会環境整備を進める。</p>																																																	

高齢者の健康（参考指標5）

領域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）													
分野	高齢者の健康											—													
指標名	高齢者の近所付き合いの程度（お互いに訪問し合う人がいる割合） ※参考指標											中間評価（H30）													
出典	東京都福祉保健基礎調査（高齢者の生活実態） [東京都福祉保健局]											—													
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5								
				22.9%					18.7%					12.1%											
図表	<table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>近所付き合いの程度（お互いに訪問し合う人がいる割合）の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>22.9</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>18.7</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>12.1</td> </tr> </tbody> </table>																	年度	割合 (%)	H22	22.9	H27	18.7	R2	12.1
年度	割合 (%)																								
H22	22.9																								
H27	18.7																								
R2	12.1																								
分析	<p>■都内の高齢者の近所付き合いの程度（お互いに訪問し合う人がいる割合）は、ベースライン値と比べて減少している（増減率：▼47.2%）。</p>																								
課題	<p>■高齢者が自らの望む社会参加を実現できることで、生きがいの増進や自己実現が図られ、個人の生活の質が向上するとともに、社会貢献や介護予防・フレイル予防にもつながる。</p> <p>■「新しい日常」においても、高齢者が地域社会で活躍できる機会を確保するなど、地域と連携しながら、社会環境整備を進める。</p>																								

高齢者の健康（参考指標6）

領域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備												最終評価（R4）																				
分野	高齢者の健康												—																				
指標名	週1回以上の通いの場への参加率（通いの場への参加率＝開催頻度が週1回以上の通いの場の参加実人数/高齢者（65歳以上）人口）（65歳以上） ※参考指標 ※中間評価時に、「第7期東京都高齢者保健福祉計画」との整合を図り、参考指標に追加												中間評価（H30）																				
出典	介護予防・日常生活支援総合事業(地域支援事業)の実施状況に関する調査 [厚生労働省] 及び住民基本台帳 [総務省]												—																				
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																
							0.4%	0.6%	0.6%	0.8%	0.9%	1.7%	2.8%																				
図表	<table border="1"> <caption>図表のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25</td><td>0.4</td></tr> <tr><td>H26</td><td>0.6</td></tr> <tr><td>H27</td><td>0.6</td></tr> <tr><td>H28</td><td>0.8</td></tr> <tr><td>H29</td><td>0.9</td></tr> <tr><td>H30</td><td>1.7</td></tr> <tr><td>R1</td><td>2.8</td></tr> </tbody> </table>																	年度	参加率 (%)	H25	0.4	H26	0.6	H27	0.6	H28	0.8	H29	0.9	H30	1.7	R1	2.8
年度	参加率 (%)																																
H25	0.4																																
H26	0.6																																
H27	0.6																																
H28	0.8																																
H29	0.9																																
H30	1.7																																
R1	2.8																																
分析	<p>■週1回以上の通いの場への参加率は、ベースライン値と比べて増加している（増減率：△600％）。</p>																																
課題	<p>■高齢者が自らの望む社会参加を実現できることで、生きがいの増進や自己実現が図られ、個人の生活の質が向上するとともに、社会貢献や介護予防・フレイル予防にもつながる。</p> <p>■「新しい日常」においても、高齢者が地域社会で活躍できる機会を確保するなど、地域と連携しながら、社会環境整備を進める。</p>																																

社会環境整備（指標）

領域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）																	
分野	社会環境整備											a（改善）																	
指標名	地域で活動している団体の数を増やす （健康、子育て支援、高齢、障害、生涯学習等の各部署で把握できる団体（各部署の公共施設等に登録又は利用実績がある団体や、部署が活動を直接的・間接的に支援している団体）の数）											中間評価（H30）																	
出典	都の実施する区市町村調査 [東京都福祉保健局]											a（改善）																	
指標数値の推移 （総数） （人口千人当たり）	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5												
						90,461				97,586					110,954														
						6.89				7.21					8.01														
図表	<table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>図表のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>総数</th> <th>人口千人当たり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>90,461</td> <td>6.89</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>97,586</td> <td>7.21</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>110,954</td> <td>8.01</td> </tr> </tbody> </table>																	年次	総数	人口千人当たり	H24	90,461	6.89	H28	97,586	7.21	R3	110,954	8.01
年次	総数	人口千人当たり																											
H24	90,461	6.89																											
H28	97,586	7.21																											
R3	110,954	8.01																											
分析	<ul style="list-style-type: none"> ■地域で活動している団体の数は、ベースライン値と比べて増加している（増減率：△22.7%）。 ■人口千人当たりの団体数も、ベースライン値と比べて増加している（増減率：△16.3%）。 ■中間評価時は、地域で活動している団体の数、人口千人当たりの団体数どちらも増加しており、改善傾向であったが、最終評価時ともに増加している。 ■地域で活動している団体は、生涯学習主管課が把握する、文化活動やスポーツ活動、ボランティア活動などに関するものが多くを占めている。 																												
評価	<ul style="list-style-type: none"> ■地域で活動している団体の数および人口千人当たりの団体数はともにベースライン値と比べて増加した。 ■増減率が指標の方向に対して+5%超であり、増加傾向にあることから、最終評価を「a（改善）」とする。 																												
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、地域のつながりが豊かなほど健康に良い影響を与えることについて普及啓発していくとともに、地域とのつながりを醸成する区市町村の取組に対して財政支援を実施する。 ■地域や職域などの関係機関と連携しながら、現役世代のうちから地域活動などに参加し、地域とのつながりを作っておくことの意義や重要性を啓発する。 ■区市町村や関係機関等において健康づくりの企画や指導的な役割を担うことが期待される人材を対象に、知識・技術を普及する研修等を引き続き実施し、健康づくりの推進主体である区市町村や関係機関等を支援する。 																												

社会環境整備（参考指標 1）

領 域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）																	
分 野	社会環境整備											—																	
指 標 名	健康状態の評価（主観的健康感）（自分自身の健康状態を「よい」「まあよい」と回答した人の割合の合計） （20歳以上） ※参考指標											中間評価（H30）																	
出 典	健康に関する世論調査 [東京都生活文化局]											—																	
指標数値の推移 （男性：20歳以上） （女性：20歳以上）	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5												
						80.4%				81.4%					81.4%														
						81.8%				80.9%					79.9%														
図 表	<table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>健康状態の評価（主観的健康感）の推移</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>男性 (%)</th> <th>女性 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>80.4</td> <td>81.8</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>81.4</td> <td>80.9</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>81.4</td> <td>79.9</td> </tr> </tbody> </table>																	年次	男性 (%)	女性 (%)	H24	80.4	81.8	H28	81.4	80.9	R3	81.4	79.9
年次	男性 (%)	女性 (%)																											
H24	80.4	81.8																											
H28	81.4	80.9																											
R3	81.4	79.9																											
分 析	<p>■健康状態の評価（主観的健康感）は、男女とも大きな変化はないが、女性は減少傾向である（増減率：男性△1.2%、女性▼2.3%）。</p>																												
課 題	<p>■主観的健康感を維持・向上させるため、個人の生活習慣の改善のみならず、地域や人とのつながりと健康との関連など、ソーシャルキャピタルの重要性について、更に周知を図る必要がある。</p>																												

社会環境整備（参考指標 2）

領 域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備												最終評価（R4）																
分 野	社会環境整備												—																
指 標 名	地域などの子育て活動への参加経験（子育てをしている父親と母親で、過去1年間に「親子が共に参加できる活動やプログラム」「親同士の交流の機会やグループ活動（母親クラブなど）」「子供を保育しあったりするグループ活動」等に参加したことがある人の割合） ※参考指標												中間評価（H30）																
出 典	東京都福祉保健基礎調査（東京の子供と家庭） [東京都福祉保健局]												—																
指標数値の推移 （父親） （母親）	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5												
						28.9%					29.8%																		
						43.8%					40.0%																		
図 表	<table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>指標数値の推移（図表）</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>父親 (%)</th> <th>母親 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>28.9</td> <td>43.8</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>29.8</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>																	年次	父親 (%)	母親 (%)	H24	28.9	43.8	H29	29.8	40.0	R4		
年次	父親 (%)	母親 (%)																											
H24	28.9	43.8																											
H29	29.8	40.0																											
R4																													
分 析	最終評価の現状値を把握でき次第記入 （来年度の部会で検討予定）																												
課 題																													

社会環境整備（参考指標3）

領域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備												最終評価（R4）													
分野	社会環境整備												—													
指標名	地域のつながり等に関する都民の意識（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況） ※参考指標												中間評価（H30）													
出典	都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査 [東京都福祉保健局]												—													
指標数値の推移 （男性） （女性）	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5									
							28.6%							26.7%												
							34.6%							29.2%												
図表	<table border="1"> <caption>図表のデータ</caption> <thead> <tr> <th>性別</th> <th>H25 (%)</th> <th>R2 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男性</td> <td>28.6</td> <td>26.7</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>34.6</td> <td>29.2</td> </tr> </tbody> </table>																	性別	H25 (%)	R2 (%)	男性	28.6	26.7	女性	34.6	29.2
性別	H25 (%)	R2 (%)																								
男性	28.6	26.7																								
女性	34.6	29.2																								
分析	<ul style="list-style-type: none"> ■地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況は、男女ともに減少している。（増減率：男性▼6.6%、女性▼15.6%）。 ■中間評価時点で調査結果の報告がなかったため、把握できている数値はベースライン値及び最終評価値の2時点となっている。 																									
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、地域の住民同士のつながりが健康に良い影響を与えることについて普及啓発していくとともに、地域とのつながりを醸成する区市町村の取組に対して財政支援を実施する。 ■ボランティア団体や自治会、NPO等による多種多様な地域活動を支援し、都民の社会参加を促進する。 ■コロナ禍においては、SNS等のオンラインを通じた新たなコミュニケーション手段が広がっていることから、対面でのつながりを補完する方法の一つとして、その活用の意義や重要性を啓発する。 ■性・世代の特徴を把握し、職場や地域でのつながり、オンラインを使ったつながりなど、その人の置かれた立場に合ったつながり方の効果的な啓発について検討する。 																									

社会環境整備（参考指標4）

領 域	領域3 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備											最終評価（R4）													
分 野	社会環境整備											—													
指 標 名	健康づくり推進員を設置している区市町村の数 ※参考指標 ※中間評価時に、新たに追加											中間評価（H30）													
出 典	都の実施する区市町村調査 [東京都福祉保健局]											—													
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5								
				31						35					36										
図 表	<table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>健康づくり推進員を設置している区市町村の数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table>																	年度	数	H22	31	H29	35	R3	36
年度	数																								
H22	31																								
H29	35																								
R3	36																								
分 析	<p>■健康づくり推進員を設置している区市町村の数は、増加傾向である（増減率：△16.1%）。</p>																								
課 題	<p>■引き続き、地域の住民同士のつながりが健康に良い影響を与えることについて普及啓発していくとともに、地域とのつながりを醸成する区市町村の取組に対して財政支援を実施する。</p>																								